

平成 30 年度第 5 回（一社）日本生物物理学会理事会議事録

日時：2019 年 4 月 20 日（土）12：30～17:15

場所：大阪大学蛋白質研究所 6F リフレッシュルーム

東京大学工学部 3 号館 6 階大会議室 3（6B04 号室）ほか（TV 会議）

出席者：理事総数 17 名 出席理事 16 名（代表理事を含む）

代表理事（会長）	神取 秀樹	理事（副会長）	高田 彰二
理事（副会長）	野地 博行	理事	石島 秋彦
理事	内橋 貴之	理事	大上 雅史
理事	須藤 雄気	理事	諏訪 牧子
理事	豊島 陽子	理事	西坂 崇之
理事	林 重彦	理事	原田 慶恵
理事	坂内 博子	理事	光武 亜代理
理事	宮田 真人	理事	渡邊 宙志

監事総数 2 名 出席監事 1 名

監事 木寺 詔紀

オブザーバー：

邦文誌編集委員長	佐甲 靖志
欧文誌編集委員長	石渡 信一
欧文誌次期編集委員長	中村 春木
2019 年度年会委員長	永井 健治
2020 年度年会委員長代理	由良 敬
ウェブサイト編集委員長	宮田 真人（理事と兼任）
2019・2020 年度理事候補	秋山 修志
2019・2020 年度理事候補	秋山 良
2019・2020 年度理事候補	飯野 亮太
2019・2020 年度理事候補	小松崎民樹
2019・2020 年度理事候補	北尾 彰朗
2019・2020 年度理事候補	小島 清嗣
2019・2020 年度理事候補	古寺 哲幸
2019・2020 年度理事候補	細川 千絵
2019・2020 年度理事候補	村田 武士

陪席者： 学会事務局 向井 牧子

議長：代表理事（会長） 神取 秀樹

議事録作成者：理事 坂内 博子

報告事項：

1. 2019 年度年会準備状況（永井）：報 1
2. 2020 年度年会準備状況（由良）
3. 出版委員会報告（野地）：報 3
4. 広告について（諏訪）：報 4
5. 男女共同参画・若手支援委員会（高田）
6. 男女共同参画学協会連絡会報告（光武）：報 6
7. 生物科学学会連合連絡会報告（豊島）：報 7
8. 啓発活動報告（原田）：報 8
9. 賞・助成金推薦委員会報告（野地）：報 9
10. IUPAB・ABA 関連報告（野地）：報 10
11. 滞納 3 年以上の会員への督促結果報告（光武・大上）：報 11
12. 会員数の推移（光武・大上）：報 12
13. 名誉会員のご逝去の対応に関して（神取）：報 13
14. 地区報告
中部支部（神取）：報 14

その他

審議事項：

1. 2019 年度事業計画（案）（野地）：議 1
2. 2019 年度予算（案）（内橋）：議 2
3. 出版委員会関連議題（野地）：議 3
4. BPPB 論文賞選考委員の選出（神取）：議 4
5. 男女共同参画若手支援関連議題（高田）
6. 生物物理若手の会第 59 回夏の学校への支援について（大上）：議 6
7. 会員増加キャンペーンについて（須藤、光武、大上）：議 7
8. 除籍規定について（須藤、光武、大上）：議 8
9. 年会中止時における対応（光武、大上）：議 9
10. 生物物理の百科事典の出版について（神取）：議 10
11. 生物物理サブグループについて（高田）：議 11
12. 定時社員総会開催について（必要書類のお知らせ）（神取）：議 12

連絡事項：

1. 次回理事会日程について（神取）

2019 年度第 1 回理事会

日時：2019 年 6 月 22 日

場所：新大阪丸ビル新館 509 号室

2019 年度第 1 回男女共同参画・若手支援委員会 11:00～（於 新大阪丸ビル新館 500 号室）

2019 年度第 1 回出版委員会 11:00～（於 新大阪丸ビル新館 509 号室）

1. 2019 年度年会準備状況（永井）：報 1

2019 年度年会準備状況について、年会長永井氏から報告があった。

1) 年会案内について

4 月 22 日（月）より募集を開始する年会案内について説明があった。

年会のコンセプト、宿泊施設の確保、35 歳以下の若手に対するトラベルグラントについて詳細な説明があった。メーリングリストで配信準備を進めている。この方向で進めることに、承認が得られた。

2) 予算案について

収入(34,527,594 円)は、年会参加費、懇親会費、バイオフィジックスセミナー（従来のランチオンセミナー）、宮崎県からの支援、アプリへの広告料。例年より 1 千万円多い。支出(34,527,594 円)は、例年の見込みに基づき算出した。新たな企画分として、特別経費（高校出前講座、トラベルグラント）を計上している。

バイオフィジックスセミナーの弁当代の会計処理について、文部科学省出席者の旅費について、紫ページ（紙媒体の年会案内）の廃止による効果について質疑があった。紫ページの廃止とバイオフィジックスセミナーの名称は、群馬年会への申し送り事項とされた。

3) 2 国間シンポジウムについて

宮崎年会におけるオーストラリア、台湾 2 国間シンポジウムの進捗状況について、担当者から説明があった。また、今年度は国外で行う日中、日韓、日印シンポジウムの予定について説明があった。

オーストラリア：オーストラリア 3 名、日本 3 名の講演者決定。

台湾：トピックは構造生物学。講演者の選定、会場の確保、順調に進んでいる。

日中：8/2-5、中国生物物理学会（天津）にて、**Single molecule biophysics** をテーマに開催。日本側は 3 名の講演者を選定した。

日韓：日韓シンポジウムについては、今年は韓国で行う。シンガポール、台湾も入る。オーガナイザー、講演者決定した。7 月 25-27 日、ソウル大学にて開催。

日印：3 名の若手奨励賞受賞者をインドに派遣した。6 月の理事会にて渡航報告。

2. 2020 年度年会準備状況（由良）

2020 年度年会準備状況について、年会長代理由良氏から報告があった。

35 人の実行委員が立ち上がった。担当が決まった。3 日間連続でポスターを掲示することが確定した。企業広告が動き始めている。SSH をどう参加させるかについては、大きくは動いていないが、高校の先生とコンタクトし、実現性を探っている。平日参加することには全く問題ない。相手方が心配されているのは研究内容のレベルだが、実際高校生の研究レベルは高いため、期待できる。宮

崎からどこを踏襲できるかについては、現場をみながら決定していきたい。

3. 出版委員会報告（野地）：報3

邦文誌、欧文誌、ウェブサイトについて、野地氏から報告があった。

<邦文誌「生物物理」>

- 審議事項にて報告

<欧文誌 BPPB>

- BPPB について 石渡編集長より説明があった。現在 10 編登録されている。必ずしも順調とは言い難いので、引き続き投稿をすすめていただきたい。
- 科研費について。残額は銀行の手数料等々で執行する。概ね予定通り執行されている。
- BPPB のプロモーションについて。ハゲカタジャーナルと区別する機関 DOAJ に登録をすすめている。登録にあたり、copyright の文言がクリエイティブコモンズと矛盾するとの指摘があり、該当の部分を削除することになった。
- 雑誌のインパクトを分析する Taylor & Francis 社から「オープンジャーナルであるならば、HTML 形式でも出版すべき」との提言があった。出版委員会ではこの方針で承認された。技術的には可能であるが、予算の問題がある。しかし、PDF から HTML に変換するしくみもあるので、BPPB 編集委員会から具体的におこりうる技術的問題を挙げてもらって対応したい。

インパクトファクターの付与時期の見込み、HTML 化する際の費用等についての質疑が行われた。HTML 化については前向きに検討することとした。

4. 広告について（諏訪）：報4

広告について諏訪氏より報告があった。

- 広告を継続しない企業に、その理由を AE 企画経由で聞いてみた。予算の減少が理由とのことである。
- 広告数は増やしていけるといいと思うので、理事から企業に働きかけていただきたい。
- また、宮崎年会でランチョンを出してくれたところに、広告を働きかけていただきたい。

企業に対して費用対効果を見せる必要性について、議論がおこなわれた。

5. 男女共同参画・若手支援委員会（須藤）

男女共同参画・若手支援委員会に関して須藤氏から報告があった。

- 宮崎年会でのキャリア支援説明会と、シンポジウムについて議論を行なっている。実施するのは新理事体制となる。

- 若手の会の夏の学校に対し、今年度も 20 万円支援する方針である。
- 新理事体制になってからも、委員会、シンポジウム、夏の学校等への参加をすすめる。
- 若手奨励賞について議論を行なった。

理事からは、宮崎年会シンポジウムの延長と会場設営に関して質問があった。

6. 男女共同参画学協会連絡会報告（光武）：報 6

光武氏から男女共同参画学協会連絡会への報告があった。

- 提言に関しては、3 分の 2 以上の賛成があった。
- 来年の幹事は、日本農芸化学会。
- 連絡会のとりまとめワーキンググループができた。
- 夏の学校の日程が決まった。(8/9-11)

7. 生物科学学会連合連絡会報告（豊島）：報 7

生物科学学会連合連絡会（生科連）について、豊島氏から報告があった。

<4 月から 2019-2020 年の 2 年間の重点活動計画について。>

以下の 5 つの重点活動項目が挙げられた。

- 1) 生科連をもっとアピールしていきたい。ウェブサイトの改定。各学会への宿題として、各学会のロゴを提出、その学会のウェブサイトにリンクをつくりたい。
- 2) 人材育成に関する意見書。研究に多様性があるという研究の特徴をまとめて、提言をだしていきたい。そのために、研究費・人材育成の委員会を立ち上げるので各学会から参加を募る。
- 3) 高校生物、大学入試について。最近、生物で受験する学生が増えていない。入試問題を工夫する必要がある。生物離れを食い止めるために、活動をしていく必要がある。こちらも委員会が立ち上がる予定。
- 4) 学習指導要領、生物学の教育用語について。新しい用語が決まった。随時各学会から意見は受け付ける。
- 5) 地球生物プロジェクト生き物の共生体としての地球を守るための啓発を行う。
食料。SDGs。中身は今後決めていきたいので、委員会に、各学会から入ってもらおう。

各学会から 2) - 5) のいずれかの委員会に入って欲しいとのこと。次期理事に決定していただきたい。1 年に 2 回、会議がある。10 月と 4 月、定例会と合わせてシンポジウムを行いたいとのことである。

理事会では、生物物理学会としてどの課題に取り組むかについての議論があった。原案は 5) 地球生物プロジェクトだが、3) 高校生物、大学入試 も重要であり、高校生物に物理化学の要素を取

りいれる工夫をするべきとの意見が出た。実際は、高校生物プレテストで暗記科目要素を排除した結果、より生物離れ現象がみられたため、実現に至るのは難しいと考えられる。本件については4月26日までに決定しなければならないため、生科連担当理事、次期会長、次期男女共同理事に判断を一任することとなった。

8. 啓発活動報告（原田）：報8

原田氏より、講師派遣事業について報告があった。研究室見学も行われている。開催報告はウェブサイト公開する予定である。

9. 賞・助成金推薦委員会報告（野地）：報9

賞・助成金推薦状況について、野地氏より報告があった。

10. IUPAB・ABA 関連報告（野地）：報10

IUPAB・ABA 関連報告について、野地氏より報告があった。

<ABA について>

- 現在、ABA の website の開設準備を行なっている。
- ABA はこれまでインドでやっていたが、報告がない。逆に過去の日本から ABA への bank transfer の証拠を出せ、と依頼がインドからきている。今後は日本の支払いの窓口を決定しておく必要がある。

<国際関係委員会(IAC)、IBC2023 について>

- 国際関係のオーソライズされた組織「国際関係委員会(IAC)」が必要。そのために、今回は AIC の内規を提案したい。
- IAC は長期的国際戦略を担う。IBC2023 準備委員会はその下部組織。ただし IBC2023 実行委員会を作るというミッションは終わったので、廃止し、その機能は IAC に引き継がれる。今後は、2 国間も、IAC の枠組みに入っていく見込み。
- 予算は一般会計の中に組み込む。6 月の予算案にグローバル化推進経費として 150 万円を計上。2 国間の宿泊費等も、ここから支出。来年度は、イグアスに派遣するための費用も計上。100 万円から 50 万円ほど増額したのは、イグアスに持っていく 2023IBC パンフレット作成費用として計上したためである。
- IBC2023 実行委員会は、Executive committee の下に、Organizing Committee と Scientific Committee がぶら下がる形。準備委員会の実働がスライドする。現在、財務担当者を検討中。
- 教育プログラムは、IBC2023 の目玉企画。アジアの若い研究者を呼んで、日本でポスドク・PI になりたい人材を育てるプログラム。既存の金沢大 AFM、永井新学術、理研 BDR 等のプログラムのようなものを考えている。いきなり本番を行うのは、大変難しいため、

前倒しし、できるところから試行プログラムを動かす。

- 2 国間シンポジウムの接待に関しては、すべての国の講演者を集めて一同で行うことで、ネットワーキングにも役立てるという案を出している。

11. 滞納3年以上の会員への督促結果報告（光武・大上）：報 11

滞納3年以上の会員への督促結果報告について大上氏から報告があった。

一般会員5名が全額納入、一般会員3名学生会員1名が退会。それ以外が除籍対象となる。

12. 会員数の推移（光武・大上）：報 12

会員数の推移について、大上氏から報告があった。

- 学会員の内訳を表示したところ、学生会員は減っていなかった。

13. 名誉会員のご逝去の対応に関して（神取）：報 13

神取氏から、名誉会員のご逝去の対応に関して報告があった。

- 3月4日に、大澤文夫名誉会員がご逝去された。「日本生物物理学会」名で供花を行い、会長が葬儀に参列、理事会に対応を報告した。
- 今後、名誉会員が逝去された際は以下のとおりの対応を原案とする。

名誉会員のご逝去の対応についての申し送り事項

1. 以下2-3に関して、基本的に会長に一任する。後で、会長は、理事会に対応を報告する。
2. 事務局への連絡を受けた場合、全学会員にメール通知をする。
3. 名誉会員への葬儀に会員が出席できるような形式であった場合、「日本生物物理学会」で供花や弔電をする。可能であれば、学会長（または代理）の葬儀への参列する。（ご家族の同意に基づき）
4. 邦文誌や欧文誌への追悼記事の掲載を検討する。

時間に制約があることから、基本的に会長に一任。その後、理事会に対応報告する。

事務局は全学会員についてメールで通知する。

会員が出席できるような葬儀の場合は、日本生物物理学会として供花や弔電をする（葬儀の形式などにより、会長判断）。可能であれば会長が参加（今回は会長が参列）。

学会誌に追悼記事の掲載を検討する。故人の業績を紹介する追悼記事は、生物物理学会にそぐわない。学術的な記事が歓迎である。

理事会では、急を要することは、会長判断に一任することが共有された。4. 邦文誌や欧文誌への追悼記事の掲載を検討する立場の人を明確にするべきとの意見が出た。会長、編集委員長を意識することに決まった。また、生物物理学会としての追悼記事は、単なる故人の業績をとりあげ、権威

づけするものではなく、純粋にアカデミックな記事であることがふさわしいとの合意がなされた。総会シンポジウムで科学的に大澤氏をしのぶ企画を考えており、そのまとめを生物物理誌の「談話室」に掲載するという形が提案された。欧文誌では、純粋な追悼文は掲載しない予定である。なお、大澤氏逝去に関しては、当学会の会員3名が連名で、アメリカ生物物理学会、日本の物理学会から依頼され、追悼文を寄稿しているとの報告があった。

14. 地区報告

中部支部（神取）：報 14

支部長廣明氏にかわり、神取氏が中部支部の会計報告を行なった。

残金として 114 万円が残っている。中部支部では懇親会費は別会計としており、9,000 円。

関東支部会について、支部長に代わり由良氏から報告があった。

3月4日、5日に、関東支部会を行なった。主に学生の発表を行い、演題数 38 件、70-80 人があつまった。会計報告は次の理事会で行う。支部会は諏訪氏がオーガナイズしてくださった。

その他

特になし。

審議事項：

1. 2019年度事業計画（案）（野地）：議1

野地氏から2019年度事業計画（案）の提案があった。

前回理事会からの変更点は、ホームページからウェブサイトへの修正。それ以外は前回の理事会の事業計画書と同じである。

本提案を、社員総会の資料として決定した。

2. 2019年度予算（案）（内橋）：議2

内橋氏から2019年度予算（案）の提案があった。

収入・支出項目に宮崎年会の予算を反映した。

代議員選挙案内の費用と、郵送費を計上。

理事会からは、国際関係費（グローバル化推進費）、150万円に増額する点の再確認があり、次回の予算案に反映されることとなった。前回懸案となったウェブページのリニューアルの増額に関しては、増額の必要がなくなったため変更なし。

グローバル推進費を増額した予算案を原案として、5月23日に監査を行い、社員総会に提出する。

予算案については上記のとおりで確定するが、公職を退いた方が年会中に委員会、理事会等に参加される際に、旅費を支出する件について理事会で審議された。宮崎年会から、会長・委員長が申請に対して判断する形で運用されることとなった。また、学会前日に行う出版委員会等の交通費に関しても、同様に個別の申請に対応する形で運用することとなった。

3. 出版委員会関連議題（野地）：議3

<人事について>

- 1) 邦文誌の委員について。高橋次期編集委員が、次期副編集長として東大の新井宗仁氏を推薦、出版委員会にて議論して承認。理事会にて議論して承認していただきたい。
- 2) 邦文誌杉村編集委員の辞任にともない、後任について京都大学の平島剛志氏を推薦いただき、出版委員会にて承認。理事会にて議論して承認していただきたい。なお、辞任のプロセスについて、承認のプロセスが明確でないが、理事会と編集長との議論でこのまま進めている。

以上2点理事会にて承認された。

<「生物物理」のプレゼンスを高める方策について>

以下の4点、編集委員会の議論にもとづき、提案したい。理事会にて承認していただきたい。

- 1) グラフィカルアブストラクトをウェブサイトに掲載

- 2) 生物物理のコンテンツを、BPPB に転載する。技術的には可能。生物物理誌の情報発信とコンテンツの充実化をすすめる。学会ウェブサイトの NEWS で記事の紹介
- 3) 会員からの自発的な提案を促進するために、「積極的な投稿提案をお待ちしています」という文言を邦文誌に追加する。
- 4) 印刷版「生物物理」の余剰分を、編集委員に配布すること（毎号 10 冊）

以上 4 点理事会にて承認された。

<BPPB 誌に関して>

次期編集委員長から、BPPB 副編集委員長の候補 3 名の推薦があった。

- 小松崎民樹氏（北大・電子科学研）
- 安永卓生氏（九工大・情報工学）
- 石島秋彦氏（阪大・生命機能）

理事会にて承認をお願いしたい。

理事会として 3 名の候補が承認された。任期は来年の 1 月より。

<DOAJ (Directory of Open Access Journal)について>

BPPB がハゲタカジャーナルでないことの確認の登録に行なっている（石渡編集長、由良氏）報告事項、承認された。

<ウェブサイト編集委員>

現在 1 名空席となっているウェブサイト編集委員について、出版委員会として、4 名の候補の中から溝端栄一氏（阪大）を第一候補者として推薦する。4 名の候補者の全ての承諾にはすべて内諾はいただいている。理事会にて承認いただきたい。

理事会として、溝端栄一氏（阪大）をウェブサイト編集委員として承認した。

<ウェブサイト編集委員からの提案>

「学会プレス発表ページ」を設定し、自薦・他薦で、学会員が所属機関で発表されたプレスリリースを公表したい。学会員のアクティビティを発信する目的。学会からの受賞だけでなく、学会員の活躍を公表するという提案。出版委員会にて承認した。理事会にて承認いただきたい。

理事会として承認された。

<生物物理誌から BPPB への自動掲載>（報告事項）

生物物理誌で掲載された記事を翻訳して BPPB に翻訳して掲載しようという案について。日本語

の記事を英語化する際に、著作権について議論があったが、第三者の意見を聞いたところ、学会の中で同意されていれば別の記事として取り扱っていいことがわかった。したがって、この方針を進めていく。技術的問題として、データベース上で出ている「生物物理」にでていたデータと被らない方法を詰めていく。コスト等については、BPPB の編集委員の方で確認し、具体案として提出する。

理事会では、邦文誌の内容が原著論文の日本語訳である場合は、それを英訳するのは問題であるとの議論が起こった。かなりの著者は新情報を加えて日本語で総説として執筆しているため、英文に翻訳しても原著と同じになる可能性は低いと予想されるが、iThenticate の基準を厳しくするなど注意が必要であるとの認識に至った。

4. BPPB 論文賞選考委員の選出 (神取) : 議 4

第 8 回 BPPB 論文賞選考委員について、神取氏から提案があった。
7 名の論文賞選考委員を理事会から選考した。

5. 男女共同参画若手支援関連議題 (高田)

<若手奨励賞について>

これまでの審査員経験回数、ジェンダーバランス等を考慮して、1 次 2 次審査員を決定した。

6. 生物物理若手の会第 59 回夏の学校への支援について (大上) : 議 6

若手の会から 20 万円の運営費補助の要請があった。男女共同参画若手支援委員会で承認。理事会に承認いただきたい。理事からは、中部支部会からの支援についてのコメントがあった。

理事会として生物物理若手の会第 59 回夏の学校への 20 万円の支援を承認した。

7. 会員増加キャンペーンについて (須藤、光武、大上) : 議 7

会員増加キャンペーンについて須藤氏から提案があった。

片岡会長のときから、会員数増加キャンペーンがあった。現在も実は続いている。

ウェブサイトにも記載されているが、知らないとたどり着けないキャンペーン。文章が古い。忘れていたことを逆に利用して、新規に作ったことにしてもいいと思う。入会キャンペーンは、2011 年の開始からこれまで、51 名が利用。非会員シンポジスト特典としても、利用の実績がある。文言を新しく、ウェブサイトのわかりやすいところに移動することを提案したい。

理事会で会員増加キャンペーンを承認し、本日の日付で提出することに決定した。

8. 除籍規定について（須藤、光武、大上）：議 8

須藤氏から、会員に関する細目に、除籍に関する文言を加えるという提案があった。心理的に除籍のバリアをあげる目的。会費を未払いで除籍されて、すぐに入会しようとしている会員がいることが背景にある。普通に会員して活動できる。会費を払わないで踏み倒しているという現象は、学会会計上よくない。他学会は、2年間再入会に時間が必要、代議員資格を喪失、などいろいろ規定がある。細則に追加することを提案したい。現状は、振込用紙、メール通知等で、滞納者が気づくしくみになっている。会費滞納者には年会の参加証を送っていないが、気づいていない可能性が高い。現状では代議員、理事の就任を禁止する規定はない。

議題：

- 会員資格の喪失者が再び入会するには、翌年度1年間の経過を必要とするか？
- 細則を変更するか？
- 早めにメールを配信するか？
- 決まったら、通知する必要がある。

理事会では以下の議論があった。

- 研究不正に関しても、除籍が必要ではないか？との質問があった。研究不正に関しては、別の除籍規定がある。
- 第5条「未履行の義務はこれを免れることができない」の条文について、議論があった。この文言は、薬学会を参考にした。払っていない分の会費は払う義務がある、という意味だと解釈される。もう一回入会するとき、滞納分も払うかどうかポイントである。この文言があれば、支払わせることができる。しかし、『権利を失い、「義務を免れる」』の条文があるから混乱するため、削除してもいいのではとの意見が出た。この文言に関しては、法律関係の専門家に問い合わせることで決定することになった。
- 会員が減っているときに、あえて厳しくする意味はあるのか？との意見が出た。
- 現行では、「年会来ない年は払わないで退会する」という人が得をする制度になっており、退会と除籍の人が同じ扱いというのは不公平ではないかとの意見が出た。

本件は、継続審議とする。原案は、この方向で引き続き作成する。

9. 年会中止時における対応（光武、大上）：議 9

宮崎年会実行委員からの要望に基づき、光武氏から台風・地震の対応について提案があった。

- 業者・協賛団体の確認
- 年会ウェブサイトへの記載
- いつまでに判断し、周知するかについて議論したい。

年会中止をだれがどう決定するのか？年会長判断、会長決定。一部だけ中止か？それとも全体中止か？警報の判断基準。いつ、どこで？審議して、6月の理事会までに決定したい。

理事会では、年会に対しイベント中止保険をかける可能性が議論された。宮崎年会ではイベント中止保険料は高価であり、懇親会用に他の部屋を確保する方が保険料より安価であることから、部屋代を予算に確保する方向で進めているとの報告があった。

年会、次期庶務理事と協力し、ガイドラインを作る方向性で進める。

10. 生物物理の百科事典の出版について（神取）：議 10

丸善から、百科事典の提案があった。メリット・デメリットを考慮し、受けるかどうか考える。

理事からは、ありきたりの辞典ではつまらないが、生物と物理をつなぐという形で、中学生・高校生にアピールすることが効果的では？との意見が出た。

11. 生物物理サブグループについて（高田）：議 11

高田氏から提案があった。

個別の専門分野で深く議論し、年会のサテライトミーティングのような場があるといいと考え、提案する。これまで2回、サブグループに関するテレビ会議を行なっている。現在のところ、以下のような形での運用を考えている。

＜サブグループの意義＞専門分野の深い議論、新たな学問分野の形成を促進、若手のグループ活動を活性化。萌芽的グループの提案がしやすい。

＜サブグループへの申請要件＞若手の人に、「サブグループ代表」という経歴にかけるような肩書きがあるとのぞましい。メンバーには世代性別が多様であることを、強く望む。簡単に申請して、継続するもよし、単年度で終わる形でもよい。サブグループは、会員だったらだれでも参加できる開かれた形とする。Webで公開して、学会員はだれでも受け入れる。

＜サブグループのベネフィット＞学術的研究会の開催の支援。5万円以内。会場費、講演者の旅費、懇親会費。科研費で出せないことを、学会経費でサポートする。

＜申請のタイミング＞1年に1～2回（5月に募集して年会にサテライトミーティング、3月に研究会するためには、11月に申請。） 若手の会の勉強会にどんどんサポートしたい。

本日は、理事会として方針を認めていただきたい。もしお認めいただければ、具体的に決めていきたい。

理事からは以下の意見が出た。

- 会員のメリットに該当するので、前向き。実際の運用に応じて、ネガティブな面は運用しながら修正していけばいい。前向きではあるが、6月以降新しい理事会で決めていければよい。
- 予算はどれくらいで運用するのか？ 思いっただけでも、ものすごい数の研究会があるが。
- 応募数に応じて、学会が持っている経費と相談しながら、1件につきいくら出せるか決まるのだろう。最初は、心配せずにはじめて、より積極的な研究会を開催させる方をサポートしたい。
- 2つの研究会を選ぶとき、なにを選ぶのか？ 老舗研究会が強くなる。
- 会員のベネフィットとして面白い。コミュニケーションの費用をつけて、議論が活発するならば面白いことが起こりそう。たくさんできたら、そのとき理事会がきちんと判断すればいいのではないかと。年会以外の交流というのは、ポテンシャルがある。
- 案自体には賛成。会計としては上限としての予算が必要。10件なら50万円。
- 上限の予算はとってきた企業広告の範囲で、など決めてもいいのでは？
- 会計は黒字である。50万円より上でもいいと思う。
- テレビ会議のメンバーを、もっと増やしてもいい。理事・理事候補全員に声をかけて、興味がある人が参加する形がいいのでは？

本件は、6月に向けて、継続審議となった。

12. 定時社員総会開催について（必要書類のお知らせ）（神取）：議 12

必要書類の説明があった。

5月23日監査会を行い、決算書および事業報告書についてメール審議をおこなうことが確認された。

連絡事項：

1. 次回理事会日程について（神取）

2019年度第1回理事会

日時：2019年6月22日

場所：新大阪丸ビル新館509号室

2019年度第1回男女共同参画・若手支援委員会 11:00～（於 新大阪丸ビル新館500号室）

2019年度第1回出版委員会 11:00～（於 新大阪丸ビル新館509号室）

その他の発議を求めたところ、格別なしと認められたので、議長は17:15に閉会を宣言して散会した。

上記の議決を明確にするため、定款第六章第三十三条の規定によりこの議事録を作成し、代表理事及び監事が次に記名押印する。

平成 31 年 4 月 20 日

一般社団法人 日本生物物理学会 平成 30 年度第 5 回理事会

代表理事 神 取 秀 樹

監事 木 寺 詔 紀